

<p>学校名</p> <p>活動名</p> <p>教科</p> <p>学年</p> <p>目的</p> <p>実施内容</p>	<p>「館山市立館山小学校」</p> <p>『守り，伝えよう！「地域の宝 沖ノ島」』</p> <p>「理科，総合的な学習の時間」</p> <p>「第4学年」</p> <p>本校は，千葉県房総半島の南端に位置し，黒潮の影響を受け北限域のサンゴを代表とする豊かな生態系を有する海辺に近い学校環境にある。本市の人気スポットとなっている沖ノ島も学区にあり，児童にとって身近な場となっている。現在，沖ノ島では，自然環境の影響が懸念されており，貴重な自然を次世代に継承するために館山市や地域のNPOなどが協働し，生物多様性の維持・保全の活動が行われている。本校がその活動に加わることは，地域全体で自然を守る活動が行われることになる。本事業では，保全活動の体験を通して，地域の自然環境の素晴らしさを知り，貴重な自然を大切にする児童の育成を目的とする。</p> <p>沖ノ島では，生態系豊かな海の象徴「アマモ場」が近年，減少傾向であることが明らかになっている。本校では，館山市やNPOなどが，沖ノ島の自然環境を維持・保全するために行っている「アマモ場再生」活動を活用し，児童自身が海の生態系の仕組みを学び，自然環境について学ぶ場とする。また，全体を通じて海と人との関わりを理解する。</p> <p>○「沖ノ島」と「アマモ場」についての学習（館山小学校にて実施）</p> <p>第1時 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">沖ノ島の魅力について考えよう。</span></p> <p>講師にNPO法人海辺の鑑定団理事長 竹内聖一氏を招き，沖ノ島の自然環境や海の生態系について学んだ。</p> <p>第2時 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「アマモって何だろう？」アマモについて考えよう。</span></p> <p>NPO法人海辺つくり研究会理事・事務局長 木村尚氏を招聘し，アマモの生態をはじめとした，アマモ場の役割について学習した。子どもたちにとっては，アマモの減少による自然環境への影響について学び，今後の沖ノ島の自然環境について考える機会となった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="309 1547 815 1921"> </div> <div data-bbox="847 1547 1442 1921"> </div> </div> <p style="text-align: center;">「沖ノ島について語る竹内氏」</p> <p style="text-align: center;">「木村氏によるアマモの説明」</p>
---	--

○種採取プログラム（館山小学校付近の海岸にて実施）

第3時 **アマモの観察をしよう。**

学校付近の海岸にて、干潮時、海に親しみながら現存するアマモ場の花枝採取を行う予定だったが、アマモの生育が不十分であったため観察のみ行った。また、アマモ場に生息する生物と触れ合いながら観察することで、自分たちの住む地域の海の豊かさについて考えさせることができた。



「木村氏と一緒にアマモの観察」



「海の生物と触れ合う様子」



「生物の説明」

○種選別プログラム（天候不良のため館山小学校体育館にて実施）

第4時 **アマモの種を集めよう。**

種子選別を行った。海の環境やアマモ場の役割について学び、アマモの種と同時に見つかる生き物が様々いることについて理解させることができた。



「アマモの種子」



「小さな生物を電子顕微鏡で観察する様子」

○苗床作り（播種）プログラム（お茶の水女子大学 湾岸生物教育研究センターにて実施）

第5時 **アマモの種をまこう。**

プランター砂と腐葉土を混ぜたものに熟成した種を播き、水槽内にて育苗を開始した。翌春の移植までの間、成長の様子を観察・学習する予定。

成果と課題

【成果】

- 子どもたちは、沖ノ島とその海中にあるアマモについて知ることによって、様々な生物が集まる「海のゆりかご」と呼ばれる場所が、身近な場所にあることについて考える機会となった。
- 沖ノ島周辺には、ナマコやヒトデをはじめ、約100種以上の多様な生物が生息している。子どもたちは、生物に直接触れる活動を通して、33種類の生物を発見することができた。活動を通して、海の豊かさを実感し、海に親しむことができた。また、活動後の感想から、地域を愛する心情を養うことへもつながった。

【課題】

- ・海辺での活動や活動場所への移動等、子どもたちの安全確保については細心の注意をしていく必要がある。
- ・アマモの生育等については、天候等に左右されるため、校内観察用のアマモ水槽の設置等について検討したい。

## 1. 単元のねらい

毎年、遠足でも訪れる「沖ノ島」は、豊かな生態系を有する自然の宝庫で、将来に渡り守り、伝えるべき貴重な自然環境であることを学ぶ。

近年、減少を続けている「アマモ場」の役割を学習し、「海のゆりかご」と呼ばれているアマモ場が増えることにより、海の環境がどのように変化するのかなど、児童一人一人があるべき海の姿を身体活動の伴った体験活動を通して感じる。

この活動に参加することで、地域自然の素晴らしさを知り、興味・感心を更にもち、地域の方々との交流を通して、地域愛を育む態度を育成する。

## 2. 単元構想図（総合：12 理科：7 国語：2 図工：2 計：23）

